

## 研究業績

### 著書

1. 小柳和喜雄(1995)「コミュニケーション・ツールとしてのマルチメディア」日本教育方法学会編『教育方法24 戦後教育方法研究を問い直す』明治図書、pp.192-201.
2. 小柳和喜雄(1999)「『コンピュータと学び』の可能性」久田敏彦・子安潤・船越勝編『学びのディスコース』八千代出版、pp.233-249.
3. 小柳和喜雄(1999)「情報教育と総合学習」久田敏彦編『共同で作る総合学習の理論』フォーラム・A、pp.195-222.
4. 小柳和喜雄(1999)「情報活用能力の育成とコンピュータ 利用授業の課題」岩垣攝・深澤広明 編『教育方法の基礎と展開』コレール社、pp.180-189.
5. 小柳和喜雄(2001)「豊かな学習環境と学びあうかかわり合いづくり」有吉英樹・長澤憲保編『教育実習の新たな展開』ミネルヴァ、pp.113-126.
6. 小柳和喜雄(2002)「調査・体験型の授業をつくる」久田敏彦・湯浅恭正・住野好久編『新しい授業づくりの物語を織る』フォーラム・A、pp.145-174.
7. 小柳和喜雄(2003)「情報教育と授業」本田敏明編『情報教育の新パラダイム』丸善、pp.35-55.
8. 小柳和喜雄(2004)「教育メディアと環境」西之園晴夫・宮寺晃夫編『教育の方法と技術』ミネルヴァ書房、pp.183-207.
9. Wakio Oyanagi.(2007) Computer in japanischen Kindergärten und Grundschulen. Hartmut Mitzlaff (Hrsg.) Internationales Handbuch Computer (ICT), Grundschule, Kindergarten und Neue Lernkultur. Schneider Verlag GmbH. S.267-271.
- 10.小柳和喜雄(2009)「大学で行うネット安全教育のカリキュラムと指導法」田中博之編著『ケータイ社会と子どもの未来 ネット安全教育の理論と実践』メディアランド、pp.164-175, pp.181-188, pp.260-264.
- 11.小柳和喜雄(2009)「現代の情報環境と子どもの言語指導」日本教育方法学会編『教育方法 38 言語の力を育てる教育方法』図書文化、pp.113-120.
- 12.小柳和喜雄(2010)『教師の情報活用能力育成政策に関する研究』風間書房

## 学術論文

1. 小柳和喜雄(1990)「科学技術教育の一般教育的性格に関する研究」中国四国教育学会編 教育学研究紀要 35(1). pp.134-139.
2. 小柳和喜雄(1991)「コンピュータ利用授業の学習過程に関する教授学的研究(1) - C A Iの授業、コンピュータリテラシ - の授業などの研究動向と課題を中心に - 」広島大学教育学部紀要 39(1). pp.65-75.
3. 小柳和喜雄(1991)「情報教育カリキュラムの基礎的研究 - ミュンスタ - グル - プの教授学的構造格子研究を中心に」中国四国教育学会編 教育学研究紀要 36(1).pp.278-283.
4. 小柳和喜雄(1992)「コンピュータ利用の授業構成に関する一考察 - 対話・行為としての「知識」観へ - 」中国四国教育学会編 教育学研究紀要 37(1). pp.141-146.
5. 小柳和喜雄(1992)「コンピュータ利用授業における教育工学的アプローチの教授学的検討 - E. アダムの論を手がかりに」日本教育方法学会編 教育方法学研究 17. pp.87-95.
6. 小柳和喜雄(1992)「モデル世界メタファによる人間 - コンピュータ・インタフェースの設計 - ブレンダ・ローレルの研究を中心に - 」常磐大学人間科学部編 人間科学 10(2). pp.99-112.
7. 小柳和喜雄・宇都木幹人(1992)「教師の情報活用能力に関する実証的研究」全国私立大学教職課程研究連絡協議会編 教師教育研究 6. pp.83-97.
8. 小柳和喜雄(1993)「ドイツにおける情報技術教育カリキュラムをめぐる争点と課題」日本教育工学会編 教育工学雑誌 17(1). pp.47-58.
9. 小柳和喜雄(1993)「学習者とコンピュータの相互行為の設計 - ハイパーメディア教材の開発原理に関する研究 - 」日本教育方法学会編 教育方法学研究 19. pp.93-101.
10. 小柳和喜雄(1993)「批判的・構成的教育科学における行為研究の位置と役割」常磐大学人間科学部編 人間科学 11(1). pp.43-53.
11. 小柳和喜雄(1994)「A Vメディア利用技術の習得過程に関する認知・行動分析」常磐大学人間科学部編 人間科学 11(2). pp.157-168.
12. 小柳和喜雄(1994)「相互作用理論からみたマルチメディアリテラシーの育成に関する研究」常磐大学人間科学部編 人間科学 12(1). pp.79-92.
13. 小柳和喜雄(1995)「コンピュータ・リテラシーということ」教育と医学(500). pp.58-63.
14. 小柳和喜雄(1995)「企画構成力とA Vメディア利用技術力の相関分析」常磐大学人間科学部編 人間科学 12(2). pp.147-156.
15. 小柳和喜雄(1995)「コミュニケーションツールとしてのマルチメディア」茨城県企画政策研究会編 茨城公論 特集マルチメディア 29. pp.7-12.

16. 小柳和喜雄(1995)「ドラマ理論に基づくマルチメディア教材の開発研究」常磐大学人間科学部編 人間科学 13(1). pp.53-61.
17. 小柳和喜雄(1996)「教育学研究における質的研究法とマルチメディアの利用について」常磐大学人間科学部編 人間科学 13(2). pp.101-108.
18. 小柳和喜雄(1996)「地域間コミュニケーションと地域からの情報発信」茨城県地方自治研究会編 茨城自治 特集 地域情報化の推進 (248). pp.5-10.
19. 小柳和喜雄(1996)「子どもの学習経験の成長過程に及ぼすマルチメディア教材の効果に関する研究(1)」茨城大学教育学部附属実践センター編 茨城大学教育実践研究 15. pp.17-32.
20. 小柳和喜雄(1996)「ネットワーク学習は教育の何を変えるのか - 教育的関係を中心に - 」常磐大学人間科学部編 人間科学 14(1). pp.63-77.
21. 小柳和喜雄(1997)「新しいリテラシーの時代と子ども」教育と医学(525). pp.12-19.
22. 小柳和喜雄(1997)「教育研究における質的研究法と量的研究法の混合利用の可能性 - 教育学研究における質的研究法とマルチメディアの利用(2)」常磐大学人間科学部編 人間科学 14(2). pp.101-111.
23. 小柳和喜雄(1998)「大学における教員養成カリキュラム再考」奈良教育大学教育学論集 創刊号. pp.23-32.
24. 小柳和喜雄(1998)「インターネットを用いた教育実習事前・事後指導のシステム開発およびその運用評価に関する研究(1) - 理論的前提 - 」奈良教育大学 教育実践研究指導センター研究紀要 7. pp.143-155.
25. 小柳和喜雄(1998)「情報教育カリキュラムの編成原理に関する研究 - 「情報科」の設置がもたらす様々な波及効果を中心に - 」奈良教育大学 教育研究所紀要 34. pp.147-158.
26. 小柳和喜雄(1998)「ドイツにおける情報教育構想の背後を探る」奈良教育大学紀要(人文社会科学) 47(1). pp.253-265.
27. 小柳和喜雄(1999)「ネットワークを用いた仮想教育実習の設計 - インターネットを用いた教育実習事前・事後指導のシステム開発および運用評価に関する研究(2) - 」奈良教育大学 教育実践研究指導センター 研究紀要 8. pp.125-137.
28. 小柳和喜雄(1999)「小学校教員のための情報教育カリキュラム試論」奈良教育大学 教育研究所紀要 35. pp.113-123.
29. 小柳和喜雄(2000)「インターネットを用いた教育実習事前指導の運営システム開発」奈良教育大学 教育実践研究指導センター 研究紀要 9. pp.17-29.
30. 小柳和喜雄(2001)「教育実習のためのケースベース・マルチメディア教材の調査研究」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 10. pp.85-93.
31. Oyanagi,W. & Reinking D. (2002) A Taxonomy of Curricular Goals for ICT Literacies for Teachers. 奈良教育大学紀要 (人文社会科学) 51(1). pp.217-226.

32. 小柳和喜雄、山内祐平、木原俊行、堀田龍也(2003)「英国のメディア教育の枠組みに関する教育学的研究 - メディア・リテラシーの教育学的研究の系譜の解明を目指して -」日本教育方法会編 教育方法学研究 28. pp.199-210.
33. 小柳和喜雄(2003)「批判的思考と批判的教育学の『批判』概念の検討」奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要 12. pp.11-20.
34. 小柳和喜雄(2003)「情報教育の可能性をリテラシー研究から読み解く」奈良教育大学紀要(人文社会科学) 52(1). pp.255-270.
35. Oyanagi,W.(2003) Difficulties and Problems in Building Schools based on Community Needs: A Case Study of Educational Reforms at Nara Prefecture in Japan. Queensland Journal of Educational Research. 19(2). pp.67-82.
36. 小柳和喜雄(2004)「教師の成長と教員養成におけるアクション・リサーチの潜在力に関する研究」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 13. pp.83-92.
37. 小柳和喜雄(2004)「豪クインズランド州における初等中等教育のカリキュラム改革の動向」奈良教育大学紀要(人文社会科学) 53(1). pp.275-285.
38. 小柳和喜雄(2005)「メディア・ディスコースの分析方法に関する予備的研究 - Norman Fairclough のクリティカル・ディスコース分析を中心に -」奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要 14. pp.83-91.
39. 上野ひろ美、松川利広、小柳和喜雄(2005)「教員養成におけるカリキュラム・フレームワークに関する予備的研究 - 米国・英国・独逸の研究を参考に -」奈良教育大学教育実践総合センター研究紀要 14. pp.147-155.
40. 上野ひろ美、松川利広、小柳和喜雄(2005)「奈良教育大学における大学院カリキュラムの改革 研究科共通科目・専攻共通科目設置の背景と実践的課題を中心に」日本教育大学協会編 教科教育学研究 23. pp.145-155.
41. 小柳和喜雄(2005)「ドイツにおけるメディア・リテラシー教育の枠組みに関する予備的研究 メディア・コンピテンツ概念の分析を中心に」日本教育メディア学会編 教育メディア研究 11(2). pp.17-21.

42. Oyanagi,W. Holita,T. Yamauchi,H. Kihara,T.(2005) A Study on Modeling of e-Facilitating Behavior in Moderation Method –A Case of Practicum in Pre-service Teacher Training. Educational Technology Research. (Japan Society for Educational Technology). 28(1&2). pp.1-10.
43. 吉村雅仁; 小柳和喜雄(2006)「米国における専門職大学院と PDS の連携について--4 つの大学院と NCPDS での調査結果を中心に」日本教育大学協会編 教科教育学研究 24. pp.117-130.
- 44.小柳和喜雄(2006)「教師教育におけるミドルリーダー養成に関する研究ノート -メンターリングを-を中心に」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 15. pp.201-209.
- 45.小柳和喜雄(2006)「教員の ICT 指導力の向上をどう図るか」特集 ICT の利活用をどう進めるか ICT 新改革戦略と学校の ICT 化 教職研修(2006/7). pp-50-53.
- 46.小柳和喜雄(2006)「ドイツにおける教師の情報活用能力を育成するカリキュラムの枠組みに関する研究 eL3 プロジェクトを中心に 」奈良教育大学紀要(人文社会科学) 55(1).pp.205-219.
47. 小柳和喜雄(2007)「教育実習における自己点検評価のための目標資質能力の明確化に関する研究」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 16. pp.225-230.
48. 小柳和喜雄(2007)「インストラクショナル・デザインとドイツ教授学の類似と差異に関する研究」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 16. pp.19-30.
49. 小柳和喜雄(2007) 「フィンランドにおける教師教育改革の背景と現状, 及びその特徴の明確化に関する研究 教職大学院のカリキュラム構築への示唆 」奈良教育大学紀要(人文社会科学) 56(1), 193-203.
50. 小柳和喜雄(2008) 「学校外の子どものメディア利用を授業へ 組織化する方法に関する研究」日本教育メディア学会編 教育メディア研究 15(1), 29-40.
51. 小柳和喜雄(2008) 「異校園種連携研究における研究動向 小・中一貫、小中連携教育を中心に 」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 17, 315-323.

52. 小柳和喜雄(2008) 「メンターティーチャー・ハンドブックの開発研究 媒介目標を用いた実習校担当教員と大学の指導教員の連携指導を目指して 」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 17, 177-183.
53. 小柳和喜雄(2008) 「学校における教員の ICT 活用指導力向上研修に関する事例研究 研究主任の役割を中心に 」奈良教育大学紀要(人文社会科学) 57(1), 199-210.
54. 松井秀史, 吉田明史, 小柳和喜雄(2009) 「学校及び地域教育機関・団体等と連携した教育プログラム及び支援教材の開発--学校問題解決ネットワーク構築による大学院教」日本教育大学協会研究年報 27, 119-130.
55. 小柳和喜雄(2009) 「教職大学院の現状とスタンダード開発の取り組み」日本教師教育学会年報 (18), 38-47.
56. 小柳和喜雄(2009) 「デジタル教科書の効果に関する研究報告(1) - 国語科デジタル教科書・社会科デジタルコンテンツ評価を中心に - 」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 18, 165-171.
57. 吉田誠, 小柳和喜雄(2009) 「教職大学院における教育環境に関わる施設整備」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 18, 227-234.
58. 松井秀史, 吉田明史, 小柳和喜雄(2009) 「学校及び地域関係機関と連携した教育プログラムの開発とその有効性について 学校問題解決ネットワーク構築による大学院教育 」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 18, 63-79.
59. 小柳和喜雄(2009) 「幼小・小中連携教育および一貫教育等に関する調査研究」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 18, 261-267.
60. 小柳和喜雄(2009) 「ミドルリーダーのメンターリング力育成プログラムの萌芽的研究」奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」 1, 13-24.
61. 小柳和喜雄(2009) 「学部から大学院につながる体系的な観察実習の方法」奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」 1, 79-86.
62. 小柳和喜雄(2009) 「ドイツにおける教師の ICT 活用指導力育成の取組に関する研究」奈良教育大学紀要(人文・社会科学) 58(1), 157-167.

63. 小柳和喜雄(2010)「教師の資質能力としてのディスポジションに関する予備的研究 - 米国における動向を中心に - 」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 19, 153-160.
64. 小柳和喜雄(2010)「教員と子どものデジタルリテラシーに関する実態調査」奈良教育大学 教育実践総合センター研究紀要 19, 229-237.
65. 小柳和喜雄(2010)「実習指導における協力校と大学の連携に関する研究報告」奈良教育大学教職大学院研究紀要「学校教育実践研究」2, 113-118.

## 参考

国際学会発表（査読付）Proceedings 論文

1. Oyanagi,W. (2002). A Research and Development on Curriculum Framework around ICT literacies for Teachers. Proceedings of ICCE 2002 International Conference . Auckland, New Zealand. pp.123-127.
2. Oyanagi,W (2004).A Study on Modeling of eModerating Method in Pre-service Teacher Education. Proceedings of SITE 2004 International Conference . Atlanta,GA. pp.2995-3000.
3. Oyanagi,W. (2004). A Development of e-Materials for Understanding the Kid's Culture in Pre-service Teacher Education. Proceedings of E-Learn 2004 International Conference. Washington. DC. A. pp.161-166.
4. Matsui,H., Yoshida,A.,and Oyanagi,W.(2009). The Development of an Educational Program and Teaching Material in collaboration with Schools and Regional Educational Institutions. -A Case study on Nara University of Education, Japan- Proceedings of SITE 2009 International Conference. Charleston. SC.
5. Oyanagi,W., Yoshizaki,S., Kihara,T., Takahashi,J., and Mizukoshi,M.(2010).The Changes to the Teaching Methods and the ICT Utilization Status observed in Japan's National Scholastic Ability Improvement Projects. Proceedings of Global Learn 2010 International Conference. Penang,Malaysia. pp.714-724.